令和５（２０２４）年度後期
授業評価アンケートの結果と分析及び提言
―PDCA サイクルに向けて―

教養教育院総務委員会委員長
岩田　貴

目的

大学教育に関しては、教育目的・目標の明確化やその到達度、さらに教育（授業）方法の改善や成績評価の適正化が強く求められている。そのために、学生と教員の双方に対してアンケートを実施し、徳島大学の教養教育について質的・量的に充実した授業の提供をめざすことを目的としている。第４期中期計画・中期目標を達成するためにも学生と教員の双方に対してアンケートを実施し、双方向のPDCA サイクルを確立し、徳島大学の教育目標を達成することを目的とする。

実施方法と時期

令和元年度から毎回すべての授業科目群を対象として期末に実施している。本年度も同様に実施することとした。令和５年度から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ５類に移行し、全国的に制限のない日常が取り戻されることとなった。教養教育では、第１週目の授業は（可能な限り第２週目の授業も）遠隔授業を推奨しながらも、それ以後も感染防止対策を徹底しながら原則対面授業の実施とした。

今回のアンケートは令和６年１月１５日～２月１４日に実施した。教員に対しては、授業実施報告書の提出（令和６年３月末まで）として実施した。昨年度と同様に，通常の項目に加えて遠隔授業で良かった点と不都合の有無を尋ねる項目を自由記述式で追加した。

結果と分析

１）回収率

令和3年度から従来の８科目群が再編成され４科目群となった。後期の期末アンケート回収率の平均値（令和５年度平均）は、教養科目群34.98（36.68）％、創成科学科目群32.43（30.59）％、基礎科目群31.20（39.31）％、外国語科目群39.12（48.92）％であり、昨年度後期の平均値回収率38.88%と比較して34.43%と低下傾向が見られた。さらに前期に比べて後期の回収率が低いことは、毎年同じ傾向である。回収率が低い原因として、これまでの授業評価アンケートの分析と同様に、学生が回答による授業改善のフィードバックされた実感がないと判断したことや、進級すると自分とは関係なくなると判断したことなどにより、さらに回答することに積極的ではなくなると推測される。現在、教養教育に対する授業評価アンケート結果の分析と提言は、毎年度の期末ごとに教養教育院のホームページに掲載し、各授業題目の個別のアンケート結果は各授業担当者にフィードバックという形で返却しているが、アンケート結果そのものは公開されていない。

回収率低下は全学的な問題として取り上げられている。教養教育院では対策として、各教員にはアンケートの実施時期を授業の最終回や期末試験の終了後と具体的に指定して実施してもらうよう依頼し、学生には授業評価アンケートに回答するよう教務システムなどを通じて周知徹底している。授業によっては回収率100%の授業題目も散見されたが、全体的には改善は見られていない。回収率向上のためには、アンケートを期末テスト開始前もしくは終了後に必ず実施するなど、ある程度の義務化の検討は必要と思われた。さらに得られたアンケート結果を授業担当教員、学生ともに効果的にフィードバックする方法を継続的に検討する必要があると思われる。授業評価アンケー

トは学生のみなさんが受講した授業題目に対する正当かつオフィシャルな評価で、みなさんの意見を授業に反映することができる手段の一つであるので、回収率向上にご協力いただきたい。

２）教員の授業に対する取り組みについて

アンケートの自由記述欄には、具体的な授業実施方法とそれについてのコメントが詳しく書かれている場合が多く、各教員の授業への取り組みや工夫を知ることができる。教員の授業内容や方法等について、自由記述のコメントから代表的な意見を科目群別に例示する。

【良かった点】

・教養科目群では「内容がとても興味深かった。授業進度もちょうどよく、自分がノートを取るスピードに合っていた。ユーモアを取り入れた画像や動画を見せてくださるのも面白かった。」、「初めて触れる分野の内容を分かりやすく解説していただき理解できた。他の学問に関連する内容もでてきて興味深かった。」、「Kahootで前回の授業の確認をすることで知識が定着したと思う。」など授業内容や授業の進め方、新しい手法に関する高評価な意見や、「他学部の学生と意見交換をすることができる機会を設けれられていたのはよかったです。自分の知見を広げるだけではなく、コミュニケーション力も養うことができたなと感じます。」、「授業内でワークの時間が沢山設けられていたので、１つのトピックスについて深く考えることができました。また、外部の方からのお話しも聞くことができ、多様な学びが得られました。」、「後期に大学で人との関わりを感じることができたのは、この授業の存在があったからだと思います。課題解決を一人で進める時と、集団で進める時に必要な能力は全然違うということに気付けました。大変なこともありましたがすごく達成感のある授業でした。またテーマも面白く、自分一人では絶対に知らなかったことをたくさん知ることができました。」などグループワークやグループディスカッションによるコミュニケーションの機会が多かったことが好評価につながっている。さらに「成績評価基準が明確なことと、加点式で学生の意欲を高める工夫がされていた点。また、授業内容が将来を通じて役立つもので、勉強を通じて将来設計を考えられた点。」など評価方法が明確なことも高評価になっている。

・創成科学科目群では「実際に活用した学生の有無はともかく、学生からの意見を即座に表示するシステム（Slibo）によって、学生からの質問や話題作りなどが積極的に行える環境が作られていたのはすごくよい案だと感じた。」のように双方向授業を実施するための工夫に対して評価が高かった。さらに「専門教育や、卒後に行われてることを教えていただけたのが非常に良かった。どの講義も興味深く、毎回楽しみでした。」など専門教育と融合・接続した授業を提供している授業も高評価であった。

・基礎科目群では「授業中に学生に理解できているかを確認しながら進めていた点。」、「演習のたびに見回りに来てくださり、理解していなかったところはヒントを与えたり、説明したりと、とてもわかりやすいように解説してくださった点」、「毎回の授業で受講生の理解度に合わせてペース配分をしていてくれたり、問題演習のタイミングを調節してくれていて「実力をつける」ことを重視してくれていると感じました。」など、学生に寄り添った授業展開が好評を得ていた。「manabaに動画をあげたり、質問用の掲示板を作ってくれているのはすごく良かったです。」など、manabaを積極的に活用した例も高評価であった。実験系ではTAが常駐していることが大変心強かったという意見も散見された。

・外国語科目群では「毎週違うトピックについてペアやグループで意見交換をしたり、ことわざが紹介されたり、語彙についての知識、海外の文化や考え方など、初めて知る内容がたくさんあり、勉強になった。」、「毎回の授業で学生同士の英語を使った会話や、教科書を活用した将

来で使える英語の表現など、英語によるコミュニケーション能力をこの授業で鍛えることができた。また、さまざまな問題のプレゼンテーションを通してスピーキング力だけでなく、問題についても知ることができた。」など、ペアやグループでのディスカッションが非常に好評であった。初修外国語では「語学だけでなく、その国の文化や習慣について触れることができた点。教科書を満遍なくできた点。」など純粋に言語だけでなく、グローバルな視点で、授業を進めたことに対して評価が高かった。

【改善してほしい点】

改善してほしい点に関しては、それほど多くはなかったが、比較的同じような意見のあったところを抜粋する。

・教養科目群では、「対面講義が出来ず、アーカイブとして残っているものを提供したのだと思うがシラバスの載っている授業内容とかなりかけ離れていた。シラバスを見てこの話が聴きたいと思って講義を取った私には非常に残念に感じた。」などシラバスとあまりにも相違のあるものは初回授業時に説明が必要であろう。「話すスピードや、スライドを流すスピードが早く感じられ、メモを取る時間が少なかったです。」、「授業スライドを毎回manabaに掲載してくれると復習がしやすいと思いました。」などは授業のテクニック的な部分で改善が必要と感じられた。また、「プレゼンに参加しない人が複数人おり、グループの人数が他よりも半分以下であるのに、特に改善がなく、プレゼンが大変だった。」、「授業の後半で行われたグループワークに関して、遠隔で授業を行っていることの弊害として、コミュニケーションの取りにくさや、課題の提出についての問題があったように思われる。結局のところ、遠隔であっても対面授業と同じように授業時間中は拘束されるため、グループワークは対面で行うことで先に述べた問題は解消、負担も軽減されるのではないかと考えた。」など、オンライン授業におけるグループワークの良さが生かされていない事例もあったようである。

・創成科学科目群では「課題のレジュメをTeamsで提出するのですが、Teamsだとエラーが起こったり、他チームのレジュメを削除できたりするので、レジュメはmanabaで提出して相互閲覧可能な状態にしてほしいです。」など、Teamsの操作方法など徹底する必要がある。

・基礎科目群では「先生によってレポート評価基準に差を作らず、全員同じようにしてもらいたいです。」、「成績評価基準についてもう少し具体的に教えてほしい。」、「Excelのレポート課題の解答例が学生番号が後半の授業はExcelの座標が明示されていたが前半は明示されておらず、課題作成の難易度が平等ではなかったので改善してもらいたいです。」などが散見され、分割クラスにおけるGPC格差と関連があるのかもしれない。

・外国語科目群では「内容が難しくて文章のきちんとした解釈ができなかったので、日本語訳をつけてほしい。」という意見があった一方で、「内容が簡単すぎた。」などの意見もあり、受講する学生のレベルによってとらえ方は非常に乖離が大きいと感じられた。「教員同士お互いに授業を見る機会があってもいいなと思いました。」という意見は分割クラスにおける授業内容の差を解消するためのひとつの提案かもしれない。

科目群全体的にシラバスと異なる授業内容であった、などの意見が散見された。やはり学生はシラバスや評価方法などもしっかり見ているので、変更があった場合は速やかに伝達すべきであろう。

令和5年度は原則対面授業を推奨していたが、遠隔授業を行った授業もいくつかあり、遠隔授業の良かった点、改善してほしい点を挙げる。

【遠隔授業でよかった点】

遠隔授業によって資料の内容や伝達方法に工夫と教員の慣れがみられるようになったことに対する評価が高かった。「いつでも好きなときに受けることができる。また、セクションごとの編集がされており丁寧だった。」、「オンデマンド授業だったので、場所や時間を選ばずに受講することができた点。」、「授業スライドを見返せる点。」など、各科目群に共通してこれまでのような混乱は少なくなったようである。特に外国語科目群では「主に口の動きが分かりやすかった。」、「対面だと発音練習をするのが少し恥ずかしかったのですが、遠隔だと難なくはっきりと発音できました。」、「発音の聞き漏らしがない。」、「発音に関する授業動画を見返すことができたのは復習に役立った。」など、発音に関してオンデマンド授業は有用であることが分かった。基本的な発音などは事前に撮影して授業前に視聴してもらうのも一助かもしれない。

【遠隔授業で改善してほしい点】

改善してほしい点は昨年度や本年度前期と比較して、全体的に非常に少なかったが、「教員の声が途切れる」、「グループワークで分かれるときに接続が落ちることが多い」など、テクニカルな問題に対する意見に集約することができた。とくに顔出ししている状態でスモールグループに分かれることによって、負荷がかかりすぎて、回線が落ちてしまうのではないかと思われる。改めて操作方法のコツなどを周知する必要があると感じられた。また、「オンライン授業だが，スライドと音声のみで，教員の顔を見たことがなかった」，「課題の配布，提出，連絡の手段はmanabaか教務システムからに統一してほしい、教員ごとに違う連絡方法はやめてほしい」など遠隔授業の方法に関連した改善点もあった。

３）学生の授業に対する意識

これまでのアンケート結果と同様に、自学自習時間は他の質問項目と比較すると短い傾向にあるが、自宅学習を促す授業も多く、各教員が工夫していることに対する結果、どの科目も前期より良い結果であった。授業の実施方法として、短編コンテンツを利用する授業が増加し、その利用形態はstream、manaba、YouTubeなど多様化している。今回のアンケートでは、受講している授業題目が短編コンテンツを反転授業として活用していると認識している意見が目立つようになった。さらに授業自体を録画して、オンデマンドとして活用することは復習の際に非常に有効であることがアンケート結果から読み取れた。今後は教員が作成したオンデマンド形式の授業を基に短編コンテンツを作成し、さらに授業時は録画しオンデマンドを活用することで、学生は自宅での予習・復習が反復されることを期待したい。ただ、短編コンテンツや、録画授業をアップロードするプラットフォームが多岐にわたることで、学生はできる限り統一してほしいとの要望がある。できるだけ混乱させないような工夫が引き続き必要と考えられた。

４）受講環境について

令和５年度から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ５類に移行し、全国的に制限のない日常となったことを受けて教養教育は、第１週目の授業は（可能な限り第２週目の授業も）遠隔授業を推奨しながらも、それ以後は感染防止対策を徹底しながら原則対面授業の実施とした。これまで新型コロナ感染症はクラスターこそ発生しなかったが、散発している状況ではあったが、大きな混乱はなかった。遠隔（オンライン）授業やオンデマンド授業に関しては、授業の特性を生かして、教員が工夫して実施した。特に遠隔（オンライン）授業はンに教務係に申請し、シラバスで事前に学生に公表する形をとった。また、昨年度の反省を踏まえて、大学で遠隔授業を受講できるようにWi-Fi環境を強化するとともに、Wi-Fi環境の整った教室を含めたスペース確保した。

自宅でのWi-Fi環境の脆弱性に起因する通信障害があげられていたため，本学では大学で遠隔授業を受講できるようにWi-Fi環境の整った教室を含めたスペース確保した。このような環境下にお

ける遠隔授業に学生・教員ともに慣れてきたのもあって、自由記載ではオンライン形式では「通学-キャンパス間の移動が不要で時間に余裕がある」、「集中できる」、「自宅では周囲に遠慮せずに声を出すことができる」、「資料や映像が見やすい」などの意見が多く、オンデマンド形式では「何度も繰り返して視聴できる」、「自分のペースで勉強を進めることができる」などオンデマンドの利点を有効に生かしたことに対して肯定的な意見が見られた。さらに遠隔授業であっても、孤独感を解消するような工夫、例えばチャット機能やブレイクアウトルームでスモールグループディスカッションを行うなどが外国語科目を中心に他の科目群でも定着していることが推察された。

総括

全科目群の期末アンケートでは、昨年度後期の平均値回収率38.88%と比較して34.43%と低下傾向が見られた。授業改善への学生の意識が全体的に低下していることが伺われるとともに、本アンケートは授業および授業担当者に対する貴重なフィードバックであるということを教員も改めて意識してほしい。学生のアンケート自由記載の端々から、教員の臨機応変な対応や授業実施方法の工夫が読み取れ、学生も評価していることがうかがえる。さらに新型コロナ禍でオンライン授業の実施を余儀なくされた中で得られた、動画コンテンツを反転授業や復習のためのオンデマンドとして活用するなど、ポストコロナにおける学習環境への対応に教員の工夫に対する評価が高かった。

今後も引き続き本アンケートを活用して，改善のサイクルを進めていくことが重要である。

提言

1. アンケート回収率向上に向けて教員、学生共にアンケートの実施、回答に向けて啓発することを継続するとともに、回収率の高い授業題目の教員によるFDの開催を行いたい。
2. 学生は教員が独自に工夫した実施方法をしっかりと評価しており、改善してほしい点は評価方法だけでなく授業内容や方法にまで踏み込んでアンケートに記載しているので、教員は真摯に学生からの評価を各授業に反映させてほしい。
3. 教養教育院としても評価の高かった授業題目で工夫されている点や、評価が低かった点について教員間で情報交換を行い、授業担当者にフィードバックをするFDなどの場を継続的に設けたい。
4. 学生への案内方法としてのポータル（学生からの入口） を明確にする必要がある。各授業への入口が異なると学生が混乱する恐れがあるため、可能な限りmanabaや教務システムなどを活用してどの科目群もできるだけ同一のポータルを利用できるようにすることが望ましい。